

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「わたくしたちの願い」ここに住んでいる方々の「その人らしさ」「生き方」「したいこと」を尊重し、地域にひらかれたホームを運営していきます。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング等、職員の話し合いの場で、理念の確認、実践に向けて取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議や、3ヶ月に1回のケアカンファレンスを行い、家族も参加してケアプランをいっしょに考え、お互いに共有している。ひまわり便りの発行もしている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出先で顔馴染みの方と会ったときには、こちらから挨拶をするよう心掛けている。又、デイサービスの職員とも声をかけあったりしている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭り、喫茶店などを開き、近所の方々に参加して頂いている(地元の方へピラ配りなどしている)	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ふれあい喫茶へ行ったり、グループホームで「ふれあい喫茶」を開催して来て頂いたり、お祭りの時に、ご近所の方々に踊りを踊ってもらったりしている。		もう少し、話し合いや地域に対しアンテナをたてる必要がある
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を見て、職員は理解している。こんなところできていなかったなど反省する点もある。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の取り組みの内容を報告し、話し合い、サービスの向上に繋げている。しかし、全ての課題に対して解決はできていない。		ご家族等からの意見課題に対してできる限り対応すると共に、情報交換を蜜にして現状の理解を求めていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	中学生の職場体験の受入れ、市主催の認知症研修に職員を派遣、介護相談員の受入れをしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の理解は全てのスタッフにできているとはいえない。		制度の理解を深める為、勉強会や研修の参加をしていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年に引き続き、研修に職員が参加し、虐待の防止に努めている。		今後、職員全体で学習会を開いて、全職員に意識づけしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家庭訪問を行い、入居者様、ご家族の疑問や不安など尋ねている。又、グループホームの説明や見学をもらい、契約している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>千葉市の介護相談員さんが来所し、入居者さんは職員に対して言えない相談や苦情を言う機会がある。又、苦情は苦情受付書に記入し職員間で話し合い、検討、改善に努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、定期的に「ひまわりだより」を送っている。また面会時に話ができる時は、報告など積極的に話をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員、あんしんケアセンターなどへの連絡はお知らせしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回、常勤会議及び非常勤会議において話し合いの場を設け、今後の運営に反映させる努力をしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>可能か限り対応しているが、人員不足、人件費の問題がある。夜勤は1人体制であり、特に夜間の対応は困難。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>「ひまわりだより」に掲載し、入居者に挨拶を行う場面作りをしている。</p>	<p>職員の異動や離職に関しては、常に相談や援助に努めていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の参加に積極的にしている。部内研修全員参加で取り組んでいるが、例年に比べて遅れている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会の学習と交流会に参加している。花見川区内のグループホームを見学に行ったりしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	喫煙所の設置をしている。職員の希望を取り入れ、ユニットごとの固定化(勤務)をしていない。希望休はできるだけとれるようにしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	育成面接を実施している。本人の悩みや仕事への意欲を把握している。民医連内の介護職の学習会や研修、交流会など行っている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の自宅や、以前通っていたデイケアに訪問し本人と話す機会をつくっている。本人の気持ちや家族に対する思い等聞いている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の困っている事等の相談から始まり、グループホームや自宅へ訪問して不安なこと求めることを聞くようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面接をして、今困っている事、これからどうしていきたいのか等を聞いて、本人にとってより良いサービスを提案してる。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ本人が住みやすくなるように、必要なものは家族と相談して揃えている。又、他の利用者との交流も徐々に馴染めるよう職員が間に入って行っている。家族が気軽に来れるよう、電話などの取次ぎを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、教えてもらう場面が多い。昔話や楽しかった事、苦労した事等を知る事に努め、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会や外出時、ホームでの本人の生活状況など気がついた事があれば伝えて家族からの意見を聞いている。ケアカンファレンスに家族が参加して現状を把握して頂いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のプライベートな部分での介入は避け、まず本人の希望を第一に考え支援している。		家族と本人が過ごす時間(散歩など)がある。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を出したり、何か物を頂いた時にはお礼の手紙を書いたり、電話をしたりしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同作業でカレンダー作り、千羽鶴折りなどをして頂く時は、職員が間に入り、雑談しながら楽しんで作業が出来るよう努めている。職員が見守りながら本人同士で、車イスを押したり、移乗したりして支え合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、手紙を出したり返事をもらったりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとの関わりを大切に、思いや希望に耳を傾ける時間をつくるようにしている。(散歩、買い物、入浴時などの時間)思いを聞いて職員が家族へ本人と電話をつなげている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの本人の生活歴や馴染んでいた事など、家族から情報を聞いたりしている。又、以前のケアマネからも情報を聞いたりしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活記録やバイタルチェック表を見ながら把握している。申し送りなどで夜間の状態を聞き、不眠や便秘など状態を見て、1日の過ごし方に対応できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス(3ヶ月に1回)には、できるだけ家族も参加してもらえるように誘っている。カンファレンスで出た意見は介護計画に反映している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態に変化が生じた場合、家族へ連絡して計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はなるべく細かく記入している。又、読んだ人が、その場の状況を想像でき、情報の共有ができるように努めている。		ケアカンファレンス時など、もっと記録のことを活かし、又活かせるような記録の書き方を職員全員がするように取り組むよう努力している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じ訪問薬剤師の利用、他有料の通院ヘルパー、リハビリ、生活相談員や訪問看護ステーションとも連携している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	当施設の目の前にできた消防署へ依頼し、心肺蘇生AEDの学習会に職員が参加する予定である。民生委員に運営推進委員をしてもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	整形外科でのリハビリ、訪問マッサージの利用をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、意見を聞いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時連絡ノートを活用し、日々の状況を伝え適切な医療が受けられるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に認知症専門医がいない。入居段階に認知症の原因がわかっていない場合が多い。		認知症専門医がこれから増えていくことを期待する。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護師と24時間対応の訪問看護ステーションに連絡がとれるようにしている。週1回利用者の健康状態を申し送りをして、状態の把握に努めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族や職員が本人の症状確認し、医師や看護師とカンファを行い、退院後のケアプランを作成する。訪問看護ステーションや往診で対応している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ある入居者さんの場合、1週間に1～2回ご家族(パーソンドケア)全員と話し合いを重ね最善をつくした。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	何度も病院、ご家族、グループホームと話し合いを重ね、ご家族の意向をギリギリまでくみ取り行った。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	対象者がいなかった。		今後にあった場合、移り住む場のスタッフ、関係者と事前に話し合い情報交換を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の情報記録は事務所に保管している。言葉かけは個々に注意しているが、気がついたらお互いに注意し合うよう努めている。</p>	<p>日勤 夜勤の送りを見守りも兼ねて入居者さんのとなりでする時がある。なるべく入居者さんには聞こえないようにしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の状況、能力に応じて会話の中で出しやすい雰囲気をつくり、その人に合った説明を行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>共同生活なのである程度の決まりはあるが、入居者さん一人ひとりのペースは守られている。できるだけ本人のやりたい事を実現できるよう支援している。(散歩、外出、編み物など)</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者さんの行きつけの美容院に行くことを援助している。お化粧品ボランティアで美容講習をしている。外出時に希望される場合、お化粧品を支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>買い物、調理、片付けまで 利用者、スタッフが一緒に行っている。毎週(火)(木)(土)と自由メニューをして、食べたい物や好きな物を提供するようにしている。</p>	<p>自由メニューで食べたいものが入居者さんから聞かれなくなってきたので、メニューを見せたり、スーパーで決めたり工夫していく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人が買ってきたブドウジュースなど、冷蔵庫のスペースを少し提供して保管している。果物の好きな人は家族が持ってきた果物を水分がわりに援助して頂いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の状態に応じ、極力オムツ・パットの使用を減らしている。一人ひとりの個々の排泄パターンを把握して、又様子の観察をして支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴を希望される方は希望の時間に入浴されている。(20時とか)		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲労時など、自分から表現できない方には、声をかけて休んでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カンファレンス、ミーティング等で、一人ひとりの楽しみごとを話し合い提供している。		入居者さんが喜びそうなCD,DVDを提供している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の消耗品や雑貨等は、本人が自分で支払いまで済ませる支援を行っている。外食時など、できるだけ自分で支払いができるよう支援している。		個人が好きな物を買える機会をもっと増やしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なるべく天気の良い日は、買い物へ行ったり散歩したり気分転換をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別外出(入居者さんが希望する外出先)を行っている。毎年バス旅行を入居者さんの希望を聞き、家族同伴で行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物があった時や本人の希望時、電話したりハガキを書いてもらったりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室や食堂にて入居者さんの希望される場所で過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入院され、帰所後に転倒の危険性のある入居者さんには、家族と同意書を交わし車イス安全ベルトを使用していたことがある。使用した場合は、日時、理由など細かく記録している。(短期間)		職員の観察力が高まった。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	個々の利用者さんの特徴を把握し、隣のデイサービスにも声をかけて見守りの連携をしている。毎回、門戸先まで外出していた入居者がいて、それはその人の生活習慣としてとらえ、職員がいっしょに外へ出ていき自由な暮らしを支えている。		近隣住民にも声をかけて、見守りネットワークを強化したい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士の声かけを密にして安全確認をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、刃物類は夜間職員室で管理している。処方薬は職員室で保管、管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「おっとはっと報告書」を作成し、職員全員が情報を共有し、事故防止に取り組んでいる。緊急時のマニュアルを作成し、誰でも見られるようにしている。嚥下障害のある人には口腔リハビリをして事故防止を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の連絡方法対処マニュアルがある。応急手当などの訓練は1年に1回行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中の避難訓練を定期的に行っている。地域の人達にも交流会開催時にお願いしたり、ピラを配布して協力を募っている。		宿直、夜勤者の訓練も行う。災害に備えて保存食や飲料水の確保も検討していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族訪問時、電話連絡、ケアカンファレンス、運営推進会議などで家族と話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ケアノートを使用し、情報の共有に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	バイタルチェック表に個別に一覧できるようにしている。一人ひとりの服薬確認をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	申し送り等で入居者さんの状態を把握し、水分量や食事の調整、体操などで予防する取り組みをしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後にハミガキの声かけ、見守り、一部介助を行っている。(夜)はポリデント洗浄の支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない方にはチェック表を使用し、水分摂取を促している。食事摂取表もある。栄養士が作ったメニューを使用している。一人ひとりの状態に合わせて、キザミ食や食事を調整している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防に関するマニュアルがある。職員、利用者共にインフルエンザ予防接種を実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	環境・物品衛生委員会をつくり、定期的に食品や冷蔵庫内の消毒、清掃を行い衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関付近に「ひまわり」の看板を設置している。玄関周辺に花壇があり、花や植物を植えて色や香りが楽しめる。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にお花を飾ったり季節を理解しやすいように大きなカレンダーを作って壁に貼っている。耳があまり聞こえない人がいて、テレビの音量を大きくしてしまうことがあるので、貼り紙をして気がついたら職員が調整している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やテレビの前の空間、洗濯場横のベンチ、台所にもイスを置くなどして、共用の場所でもそれぞれに合うような居場所を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある家財を持ち込み(アルバム、ラジオ)本人が安心して暮らせるように配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、エアコンの調整などマメに行っている。トイレに窓がなく臭いがこもりやすい為、消臭剤を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はほとんどバリアフリー。車イス用トイレを1ヶ所設置。台所もテーブルを低くして車イスでも使用できるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	排泄については特に注意を払っている。トイレ内に「パットゴミ入れ」「パット着用」など、本人が見てわかるように表示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1Fの玄関付近には花壇や洗濯物を干す物干しなどがある。天気の良い日には日向ぼっこができるベンチが置いてある。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

食事を作ったり、片付けたりすることを支援している。一人ひとりに役割をもってもらい、当たり前のことを毎日行っている。昼間、入居者さん同士でケンカをしていますが、夜はいっしょにテレビを見て過ごしている。